

<口語詩句 2021, 2月総評> 龍 秀美

定型から逃れること、或いは一見定型でも意識の持ち方に重点を置いた作品を多く選んでみました。

生きるとは讃岐うどんを活気よく

啜りお出汁が目に入ること

作者 さいう 愛知県

——動きが目に見えるような若々しい作品。

美しいものへ触れるのを躊躇う

涙と桜の花びらに

遅れてやって来る万有引力

作者 燦嗣いとり 愛知県

——見えるものと見えないもの、感じられるものと感じられないものは互いに引き合っているのでしょう。

猫の恋 母への嘘が増えていく

作者 燦嗣いとり 愛知県

——母への嘘という特別な成長とエロスの証し。

生まれおち

生きてるだけでえらいとか

いわれ続けりゃ死にたくもなる

作者 白野 新潟県

——真実ときれいごととは遠い親戚かも知れませんね。

人を信じないでいられない呪い

作者 西 緑花 京都府

——人を信じるということの避けられない愚かしさ。

水鳥は去ったのか

去ったなら水鳥なのか

水鳥だったのか

去ったのか

作者 来栖 優 宮城県

——口語詩句ならではのかたちとリズムを感じます。

書き言葉

話し言葉の

境界に

LINE でおくら

れてきた「切」の字

作者 後藤 京都府

——電話という話し言葉とメールという書き言葉の境界に LINE はあるという発見。

ぬめぬめと

ひかる金属出現し

いっぱいになり

くるまうつりまがる

カーブミラー

作者 自見 旅人 東京都

——時間の経過に密着しながら移動する光景。これも口語詩句の可能性の一つ。

母親に

離婚を勧める

年ごろの

妹を見る

へらへらしておく

作者 サトリ 東京都

——作者の立場としては「へらへらする」しかないでしょうね。

麦わら帽逆さに持つと軽くなる

作者 長谷川柊香 宮城県

——物理的な問題なのか心理的なことなのか。いずれにしてもこう言われると納得させられてしまう言葉の不思議。

タテじゃなくてヨコで

合計じゃなくて個別です

え？ そう救世主は繰り上げて

作者 真島 京都府

——事務？歴史？宗教？なんでもいいや、ははは。